

# ぼくも私も まちづくり

～子ども版  
平塚市自治基本条例の手引き～

## 目次

自治基本条例について知ろう!!	2
子どもがかかわっているまちづくりの事例	
子ども広報 なでしこ	4
青少年議会	6
公園愛護会	8
ジュニア・リーダーズクラブ	9
町内福祉村	10
ユースボランティア	12
平塚市自治基本条例(抜粋)	14



# 新たなまちづくりのルール 自治基本条例について知ろう!!

## まちづくりってどんなふうにするの？

まちづくりにはどんなことがあると思いますか？  
暮らしが便利になるように建物を建てたり道路を整備したり、でも、それだけではありません。  
そこに住んでいる人々が、幸せに暮らせるようにすることもまちづくりにとって大切なことです。  
まちづくりのために市はいろいろな取り組みをしています。

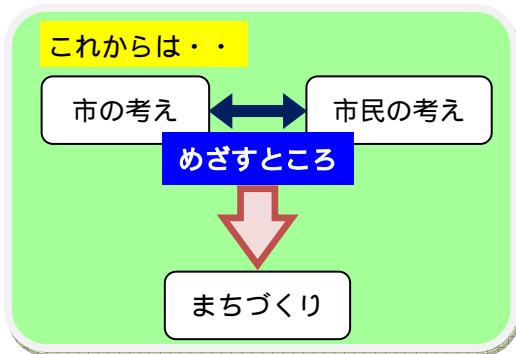
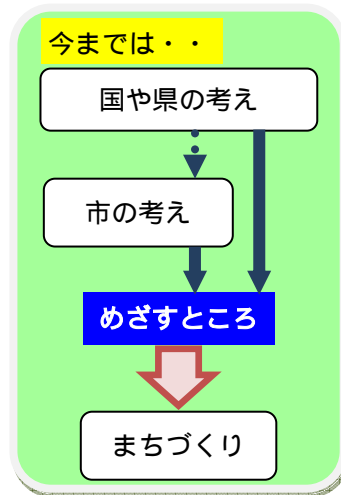
では、どんなふうにもちづくりが行われているのでしょうか。

今までは、国や県が考えて決めたことをもとに、市が考えて行っていました。

これからは、市と市民が考え方を出し合って、どんなまちにしていくかを決めて取り組みを考えます。

これまで以上に、まちづくりについて計画から実施まで、様々な段階で市民の参加が多くなってきます。

また、まちの進む方向を決めて、取り組みに参加するということが、まちづくりに関して市民も責任をもつこととなります。



## わたしたちもまちをつくれるの？

第11条 子どもは、社会の一員として尊重され、まちづくりにかかわることができます。

「子ども」は社会の一員であり、自治の担い手であるということです。つまり、「子ども」もまちづくりに参加して、よりよい平塚のまちを一緒につくっていきましょうということです。

## わたしたちにできることは？

わたしたちのまち平塚を、よりよいまちにするために、みなさんにもできることがたくさんあると思います。

みなさんは、「子ども」として  
どんなまちをつくりたいですか？

人にやさしいまち、緑が豊かなまち、にぎやかなまち、  
かんきょう  
環境を大切にすまち、安心して暮らせるまち など

みなさんは、「社会の一員」として  
どんなことができますか？

困った人に手をかしてあげる、緑を大切にする、まちを  
きれいにす、資源を大切にする など

みなさんは、「平塚市民」として  
何からはじめますか？

ひとりですること、仲間とすること、地域の人とすること、いろいろなことがあるでしょう。「わたしたちのまち平塚」のために、何かできることがあったら、行動をおこしてみましょう。

そして、一緒にすてきな平塚のまちをつくってみませんか。

みなさんのまわりでも、まちづくりに参加している人はたくさんいます。どんな活動をしているのか見てみましょう。



## 平塚市は地方自治体

このように、自分たちのことを自分たちで考え自分たちの責任で行うことを「自治」といいます。

平塚市のように、市民のことを考えて市民のために政策を行う団体を、地方自治体といいます。

学校生活をよりよくするために、自分たちで考えて活動している児童会も自治を進めているということになりますね。

## 自治基本条例って何？

まちづくりを進めていくための、自治の基本となるルールのことです。

学校でも、自分たちの学校をよりよくするために、ルールを決めて取り組んでいますね。

## どんなことが書いてあるの？

平塚市自治基本条例は、前文と26の条文からできています。

その中で、条例ができたわけや、めざすまちの姿などについて書かれています。

また、自治を進める基本的な考え方や、情報を共有すること、市民が参加すること、市民・議会・行政がうまく協力できるように役割を分担することが決められています。

自治の担い手としての市民は、市内に住んでいる人だけでなく、市内で働く人、通学して来る人、会社、地域で活動をしている団体などのことをいっています。

- 条例ができたわけ
- 自治を進める上での基本的な考え方
- 市民、議会、行政が協力していくための原則
- 自治を進めることでめざすまちの姿
- 自治の担い手である市民、議会、行政の権利や責任 など



## 『子ども広報 なでしこ』ってどんなもの

平塚市では、市内小学校5、6年生が「豆記者」になって、平塚の様々な話題を取材し、子ども広報なでしこを作っています。

平成5年10月に創刊し、平成8年度からは年1回9月に発行しています。10号まではタブロイド判(“広報ひらつか”の大きさ)4ページでしたが、11号からは、A4判(この手引きの大きさ)オールカラー16ページになり、記事が増えました。

現在では、1万8000部を発行し、市内小学校の児童全員に配っています。また、公民館など公共の施設しせつでも配っています。

題名の「なでしこ」は、平塚市の花「なでしこ」から名付けました。

平成19年度の特集記事は、「大昔の暮らし体験」をテーマに、豆記者が体験や取材を通して、見たり感じたりしたことをまとめました。

## 『豆記者』を体験して

豆記者に決まった時、「やったー！」と叫んでしまいました。取材がすごく楽しくて、もう終わりなんて考えられません。ほかの人にも豆記者の楽しさを知ってもらいたいので、友達にも来年やるといいよと誘いたいです。

編集会議の時は、どんなメンバーが来るのかドキドキしていました。

でも、弓矢を作ったり、平塚球場の裏側を取材したりして、楽しかったです。文章にまとめるのは大変でしたが、貴重な体験ができてよかったです。



みんなでがんばって完成させました。

豆記者になって、初めて会った人と仲良くなれたし、土器作りなど普段できない体験ができました。また、取材では、いつもは入れない場所に入らせてもらったりして、動物保護センターのことなどたくさん知ることができました。

豆記者に参加してよかったことや感じたことがたくさんあります。まず、日常生活ではできない貴重な体験ができたこと。友達ができたこと。

本当にこの豆記者あうぼに参加してよかったです。



土器作りや弓矢作りなど、古代の暮らしを体験しました。



## 『豆記者』を体験して

豆記者に参加して、自分の住んでいる地域がいかに素晴らしいかを知りました。子ども広報は、平塚市をいろいろな面から深く調べていける探査機です。平塚はこれからもぼくたちの宝物です。

豆記者あうぼに応募しなかったら、こんなすごい体験は、できなかったと思います。優しい友達もできたし、この夏を楽しくしてくれた豆記者をやれてとてもよかったです。これからもずっと豆記者が続くことを願っています。



古代人の服を着てみたよ。



編集会議では、どんなテーマにするかを豆記者みんなで決めました。

編集会議の時は、6年生のお姉さんやお兄さんが多くてドキドキしました。でも、みんな親切で、すぐに友達になることができました。そして、何よりも自分自身の勉強になりました。どうもありがとうございました。

最初は、わたしが通う小学校からは一人だけだったので不安でした。

でも、参加してみてわたしは、今まで知らなかった平塚を知ることができました。動物保護センターでは、命の尊さと大切さを考えさせられました。

ぼくは、子ども広報に参加して本当によかったと思います。最初は緊張したけど、友達もたくさんできました。

火おこしをしたり、動物保護センターを取材したりして、今までにしたことのない体験ができました。

私が子ども広報に参加してよかったことは、他の学校の友達ができたことです。来年通う太洋中学校には、港小学校の子どもしか行かないので、最初は不安でしたが、自分から話しかけることができたので、いい経験になりました。



博物館で、火おこしにチャレンジ！うまく火がおこせるかな。



## ? 『青少年議会』ってどんなもの

市民の声を、市議会議員を通して市政に反映させるところが市議会です。

市議会が、市政の中でどのような働きをしているのかを青少年のみなさんに知ってもらい、また体験してもらうため、3年に1回、青少年議会を開いています。

平成17年の青少年議会では、市内に住んでいる小・中学生18人が、議会の仕組みや質問書の書き方などを学習した後、実際に議場を使って市長や助役（現在の副市長）、教育長など、市

の関係者と意見<sup>こうかん</sup>を交換しました。

参加者の一人ひとりが、よりよいまちづくりのために何をすべきか、様々な角度から真剣<sup>しんけん</sup>に考えて発言したので、本物の市議会さながらの議事が進められました。

議会のことを学んでもらうことで、一人でも多くの青少年のみなさんに市政への関心を深めてもらい、自分たちもぜひ平塚のまちづくりに参加したい、という気持ちになってもらいたいと思います。

## 準備会



準備会で平塚市のことを調べて、質問や提案を考えます。



準備会では、議場に入って議員席に座ってみました。初めて入った議場に少しドキドキしました。

## 本会議



議場に入り、“ちがいの言葉”を言って、青少年議会が開会されます。



いよいよ本番。市長さんや部長さんにするどい質問や、子どもの視点からの提案を行いました。

## ! 『青少年議会』に参加して

青少年議会に参加し、平塚市のことがよくわかり、とても貴重な体験ができ、よかったです。また、他の青少年議員のとてもよい発言を聞くことができ、勉強になりました。

質問に対する答弁を聞き、やはり平塚市をよりよいまちにするのは難しいことや、そのことについて平塚市がよく取り組んでいることが分かり本当によい勉強になりました。

青少年議会で学んだことを、これからもいかしていきたいです。



市長さんから、はげましの言葉をいただきました。



市の仕事に自分の意見を反映してもらおうと、精一杯自分の考えを発表しました。

当日は、多くの人が聴き<sup>き</sup>に来ていて、とても緊張<sup>きんちょう</sup>しました。でも失敗しないで発言できたのでよかったです。

この議会を通して学んだ、様々なことは、これから先のいろいろな場で役立てていきたいです。

それと自分にもできることをして行って、私のテーマ「人にやさしいまちづくり」に少しでも近づけるようにしていきたいです。

とても短い準備会の中で様々なことを学んだり知ったとぼくは思います。この平塚市はどのようにして成り立っているのかとか、条例や市の目的などを改めて一から知ることができました。

また、平塚市は、たくさんの機関・人々によって支えられている。それは、周りの人や自分自身のことにも言えると思うことができました。

準備会は大変で、とても苦労しました。でもその経験は二度とない貴重なものなので、この苦労を忘れずにいたいと思います。



最後に市長さんと記念に写真を撮りました。準備会から青少年議会での発表まで、3か月間にわたって、取材をしたり、質問書を書いたり、いろいろな経験ができました。



## ? 『公園愛護会』ってどんな活動

公園を市民のみなさんが楽しく過ごせる場所とするために、市役所の人や専門の業者の方がいろいろな作業をしてきれいにしています。

このうち、いくつかの公園では、地域の人たちが自分たちで清掃などを行っています。このように、地域の人たちが自分たちで公園をきれいにしている活動をしている会が公園愛護会です。

平塚市では、地元の公園に親んでもらいたいと考え、地域の人たちが公園をきれいにする

活動を様々なかたちで応援し、なるべく多くの公園が地域の人たちの手で管理してもらえるようにしています。

最初は6つの団体から始まりましたが、今では約140の団体のみなさんが、自分たちの手で公園を管理しています。この中には、学童保育でいつも遊んでいる公園を、皆さんと同じ小学生がきれいにしている愛護会もあります。

## ! 『公園愛護会』に参加して

暑いときにお掃除をしてつかれました。でも、落ち葉や空き缶などを拾い公園がきれいになったので、うれしかったです。今度の公園掃除でもがんばってきれいにしたいです。

今日は、最初遊んでいましたが、お母さんから公園の掃除に行こうと言われ、掃除に行きました。

暑い中で草むしりをして大変でしたが、みんなでやっただけできれいになりました。

8月19日に公園のお掃除に行きました。暑かったけどみんな草をとってきれいになりました。



プールに行く前に、公園をきれいにする活動をしました。



一時間の掃除で、公園はすっかりきれいになりました。

公園で掃除をしました。雑草を取ったり、空き缶やビニールのごみがあったけど、きれいになってうれしかったです。雑草がいっぱいでつかれたけど、みんながんばっていたと思います。

今日、公園で掃除をしました。みんなで雑草取りや落ち葉拾いをしました。落ち葉がいっぱいあって面倒くさかった。暑くてすごいあせをかいたけど、休けいしながらみんなで掃除をがんばってやった。

## ? 『ジュニア・リーダーズクラブ』ってどんな活動

平塚市ジュニア・リーダーズクラブは、昭和57年に第1期平塚市中学生リーダー養成講習会(第2期より平塚市ジュニア・リーダー養成講習会に名前が変わりました。)の卒業生30名によって、自主的に結成された団体です。

現在、平塚市ジュニア・リーダー養成講習会を終えた市内に住んでいる中学生・高校生67名が会員になっています。

明るいまちづくりに役立つことを目的とし

て、地域の子ども会行事のお手伝いや、会員自身が計画・運営するキャンプなどの自主活動を行っています。さらに、知識や技術、能力を高める野外活動研修などの活動もしています。

また、浅間祭では実行委員として計画の段階から参加したり、青少年健全育成のつどいでは司会を務めたりするなど、平塚市の事業にも協力しています。

## ! 『ジュニア・リーダー』として活動して

私は今回、ジュニア・リーダーの活動を通して、たくさんのお年寄りとおふれあうことができました。普段お年寄りとおふれあう機会のない私にとって、とても貴重な体験でした。

お年寄りの方々は、私たちと一緒に元気に歌を歌ったり、ハンドゲームを楽しそうにやってくださって、こっちもとてもうれしくなりました。元気をもらいました。

私は、これからもジュニア・リーダーでのボランティアを続け、たくさんの人々とふれあい、元気をあげたりもらったりしていきたいです。



納涼祭の合唱で使う道具を配って、みんなで楽しく合唱です。



今日は、納涼祭でおじいちゃんおばあちゃんと一緒に楽しい時間を過ごしました。

ぼくは今回、ジュニア・リーダーとして、お年寄りの方々が集まって行われる納涼祭の協力をさせていただきました。

たくさんのお年寄りの方々とお話をしたり、フラダンスをしたり、盆踊りやゲームをしてとても仲良くなりました。今までにお年寄りの方とおふれあう機会があまりありませんでしたが、このボランティアでぼくが逆ににお年寄りの方々に元気を分けてもらいました。

今後もボランティア活動に参加して「明るいまちづくり」のために活動していきたいです。





## 『公園愛護会』ってどんな活動

公園を市民のみなさんが楽しく過ごせる場所とするために、市役所の人や専門の業者の方がいろいろな作業をしてきれいにしています。

このうち、いくつかの公園では、地域の人たちが自分たちで清掃せいそうなどを行っています。このように、地域の人たちが自分たちで公園をきれいにする活動をしている会が公園愛護会です。

平塚市では、地元の公園に親しんでもらいたいと考え、地域の人たちが公園をきれいにする

活動を様々なかたちで応援おうえんし、なるべく多くの公園が地域の人たちの手で管理してもらえるようにしています。

最初は6つの団体から始まりましたが、今では約140の団体のみなさんが、自分たちの手で公園を管理しています。この中には、学童保育でいつも遊んでいる公園を、皆さんと同じ小学生がきれいにしている愛護会もあります。



## 『公園愛護会』に参加して

暑いときにお掃除そうじをしてつかれました。でも、落ち葉や空き缶かんなどを拾い公園がきれいになったので、うれしかったです。今度の公園掃除そうじでもがんばってきれいにしたいです。

今日は、最初遊んでいましたが、お母さんから公園の掃除そうじに行こうと言われ、掃除そうじに行きました。

暑い中で草むしりをして大変でしたが、みんなでやっただからきれいになりました。

8月19日に公園のお掃除そうじに行きました。暑かったけどみんなで草をとってきれいになりました。



プールに行く前に、公園をきれいにする活動をしました。



一時間の掃除で、公園はすっかりきれいになりました。

公園で掃除そうじをしました。雑草を取ったり、空き缶かんやビニールのごみがあって汚きたなかったけど、きれいになってうれしかった。雑草がいっぱいでつかれたけど、みんながんばっていたと思います。

今日、公園で掃除そうじをやりました。みんなで雑草取りや落ち葉拾いをやりました。落ち葉がいっぱいあって面倒めんどうくさかった。暑くてすごいあせをかけたけど、休けいしながらみんなで掃除そうじをがんばってやった。



## 『ジュニア・リーダーズクラブ』ってどんな活動

平塚市ジュニア・リーダーズクラブは、昭和57年に第1期平塚市中学生リーダー養成講習会こうしゅうかい（第2期より平塚市ジュニア・リーダー養成講習会こうしゅうかいに名前が変わりました。）の卒業生30名によって、自主的に結成された団体です。

現在、平塚市ジュニア・リーダー養成講習会こうしゅうかいを終えた市内に住んでいる中学生・高校生67名が会員になっています。

明るいまちづくりに役立つことを目的とし

て、地域の子ども会行事のお手伝いや、会員自身が計画・運営するキャンプなどの自主活動を行っています。さらに、知識や技術、能力を高める野外活動研修などの活動もしています。

また、浅間祭せんげんさいでは実行委員として計画の段階から参加したり、青少年健全育成のつどいでは司会を務めたりするなど、平塚市の事業にも協力しています。



## 『ジュニア・リーダー』として活動して

私は今回、ジュニア・リーダーの活動を通して、たくさんのお年寄りとおふれあうことができました。普段お年寄りとおふれあう機会のない私にとって、とても貴重な体験でした。

お年寄りの方々は、私たちと一緒に元気に歌を歌ったり、ハンドゲームを楽しそうにやってくださって、こっちもとてもうれしくなりましたし、元気をもらいました。

私は、これからもジュニア・リーダーでのボランティアを続け、たくさんの方々とふれあい、元気をあげたりもらったりしていきたいです。



納涼祭の合唱で使う道具を配って、みんなで楽しく合唱です。



今日は、納涼祭でおいちゃんおばあちゃんと一緒に楽しい時間を過ごしました。

ぼくは今回、ジュニア・リーダーとして、お年寄りの方々が集まって行われる納涼祭のうりょうさいの協力をさせていただきました。

たくさんのお年寄りの方々とお話をしたり、フラダンスをしたり、盆踊りぼんおどやゲームをしてとても仲良くなりました。今までにお年寄りの方とおふれあう機会があまりありませんでしたが、このボランティアでぼくが逆にお年寄りの方々に元気を分けてもらいました。

今後もボランティア活動に参加して「明るいまちづくり」のために活動していきたいです。



## 『町内福祉村』ってどんなところ

だれもが住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、身近なところでたがいに助け合い、支えあう地域づくりが必要です。地域で支えあう仕組みを住民が主体となつて作り、活動する、それが町内福祉村です。

町内福祉村では、「身近な生活支援活動」と「ふれあい交流活動」を柱として、地域のみなさんが話し合いを重ね、地域に合った活動をしています。

また、町内福祉村には、コーディネーターと呼ばれる調整役がいて、悩みごとや困ったことの相談を受けたり、問題を解決するために関係者と連絡や調整を行ったりしています。

地域内に住む援助を必要としている人を対象に行うボランティア団体には、中学生や高校生のボランティアがいるところもあって、外出の付きそいや、小さな子どもの子守り、お年寄りとの交流などの活動を行っています。

## 『町内福祉村』の活動に参加して

普段ではできない体験をさせていただきました。

いつもの様に過ごしては得られない大事なことを学ばせてもらった気がします。いつもは、募金のボランティアが多いので、子守りという一風変わったボランティアを大変楽しくさせていただきました。これからもボランティアをますますやろうと意欲がわいてきました。

大きな子と接するのに比べて、小さい子をあやすのはとても難しかったです。物ではないのだからと思って気をつかうし、人の命を預かっていることが大変でした。



今日は、小さい子どもがいるお母さんが、日ごろのつかれを取るためヨガ教室に参加している間、ボランティアで子守りをしました。



お母さんとはなれて泣いてしまった子どもを、だっこしてあやします。

はじめは子どもがお母さんから離れなくて大変でした。お母さんから離れた後も泣いてしまったり、お母さんがやっているヨガに興味津々の子が多かったです。私は保育園にもお手伝いに行きましたが、保育園の子どもとは違って、新しい体験ができました。今回、子どもと遊べてすごく楽しかったので、機会があったらまたやりたいです。

## 『町内福祉村』の活動に参加して

あらためて母親の大変さを知ることができました。小さい子どもを見るのは大変だったけど、いい経験になりました。私たちも、小さいころは母親に面倒を見てもらっていて大変だったのかなあ？と今では思います。

今回、このボランティアができて本当にうれしいです。また、このような機会があったらやりたいです。



福祉村の人たちや保育園の保育士さんと一緒に、みんなで協力しながら楽しく子守りをして過ごしました。



泣いていた子どもも、すっかりお姉さんに慣れて楽しく遊んでいます。

ボランティアは普段できないことができ、とてもよい経験になりました。

1・2年生の時は、海岸の清掃しかやったことがなかったけど、3年生になっていろいろなボランティアをやるようになり、その楽しさも学ぶことができました。これからもいろいろなボランティアをやっていこうと思います。

今回、このボランティアができて、うれしかったです。みんなカワイかったし、何より笑ってくれたときは心から「このボランティアをやって良かった！」と思えました。少しでも誰かの役に立てているかなと思うと、すごい達成感がわきます。また、やりたいです。



おもちゃの片付けも子どもと遊びながらできるほど、子守りにも慣れました。



無事、お母さんのところにもどりました。

いろいろな性格の子がいて、大変だったけど、子どもが寄ってきてくれて可愛いと思いました。ボランティアは勉強になるので、積極的にいろいろなボランティアに参加して、いろんな人の気持ちが分かるようになりたいと思います。



## 『ユースボランティア』ってどんな活動

ユースボランティアは、青少年のみなさんが夏休み期間にいろいろな分野のボランティア活動に参加する機会をつくっているものです。

これは、青少年のみなさんが日ごろ社会にかかわる機会が少ない中で、自分の力が社会に役立つことや、人から感謝される喜びを実感してもらいたいと考えて行っているものです。

また、活動する機会を提供しているいろいろ

な団体にとっては、青少年のみなさんをボランティアとして受け入れて交流を図ることで、若い人へ活動の輪を広げることができます。

このような機会をつくることで、青少年のみなさんが、より市民の活動にかかわるようになり、さらに市民の活動が活発になることを期待しています。

## 『ユースボランティア』に参加して

私は初めてボランティアを体験しました。きっかけはお母さんにやってみたら？と勧められたからでした。

今回のボランティアでは、子どもとたくさんふれ合うことができました。私は小さい子が好きなので、子どもと工作をしたりドッジボールをしたりするのはとても楽しかったです。

ボランティアを通して私は、人との接し方と達成感を学びました。ボランティアは自主的な活動です。それを自分から進んで始めたことは、私にとってこれからのための第一歩だと思います。これからも、ボランティア活動を続けていきたいと思っています。



子どもと協力しながら紙のヨーヨーをつくりました。



真夏の日差しの中、海岸の掃除をしました。

最初のボランティアはハローパトロール。挨拶をしながら、海岸の掃除をするもので、日かげのない海岸での掃除はとても大変でした。

二回目のボランティアは、湘南平塚ビーチクラブ。ビーチバレーのボールの貸し出しや、海岸周辺のごみ拾いなどをしました。

三回目は、平塚をみがかく会。まちの落書き消しは、とても楽しかったし、何より磨いて消えた跡を見た瞬間の爽快感は、今でも忘れません。

こんな些細な活動だけど、やってみるとこんなに楽しいのだと、新たな発見ができ、またやってみようというチャレンジ心が芽生える。友達とでもいい、自らやってみようと思うことで自分を変えてみてください。きっと新しい心が生まれ、自分を見つけることができます。

## 『ユースボランティア』に参加して

せっかくの長い夏休み。何か人の役に立つことをしたい！そう思い、このボランティアをすることにしました。私がそう思うきっかけとなった出来事。それは、保育園での職業体験です。つかれたけれどとてもやりがいがあったのを覚えています。人のために自分が役に立てたことがとてもうれしく、ボランティアに興味を持つようになりました。

今回、私は三つのボランティアをすることができました。どのボランティアも私にとってプラスになるものばかりでした。何かをして「ありがとう」と言われた時が一番うれしかったです。これからもこの気持ちを忘れないようにしたいです。



子どもが遊びながら環境について学べる“環境かるた”を作りながら、自分たちも環境について、いろいろ学びました。



発展途上国を支援しているリサイクルショップで手伝いをして、世界の人たちのことに関心をもつようになりました。

これまで、ボランティアについて深く考えたことはありませんでしたが、学校でボランティアの募集をしていたり身近なものになりました。そこでボランティアを体験してみようと思い参加することにしました。

海でボールの貸し出しやごみ拾いをするビーチクラブと、地域の人と発展途上国の人たちをつなぐWE 21でいろいろな体験をしました。

どんなに大変なことでも、大勢の力が集まれば可能になるし、どんな小さなことでも人の力なしでは、不可能になってしまうと思いました。

普段ではできないことが体験できて良かったと思います。これからも積極的にいろいろなものに参加していきたいと思っています。

ぼくは、平塚をみがかく会の落書き消しをして、身近な場所にたくさんの落書きがあり、それを消すために一生懸命あせを流してがんばっている人がいることを初めて知りました。

ぼくが参加した時にはたくさんの人で消していたけれど、これを少ない人数でやるとなると、とても大変なことです。だからみんなが自分のまちのために協力してボランティアをすることが大切だと思います。

みんなが自分のまちをもっと考えて、自分の手でまちをきれいにすることが大事であり、そうすれば自分のまちを誇りに思えるようになります。人任せにしないで自分からするボランティア。そして、みんなと協力するボランティア。この二つが大切だと思いました。



電柱などにある落書きを、ひとつひとつ消して、きれいなまちを取りもどしました。



平塚市自治基本条例(平成18年条例第32号) - 抜粋(前文、第5章 自治の担い手 第1節 市民) -

私たちのまち平塚は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、先人の英知と努力により、平和で活力に満ちた住みよいまちとして発展してきました。

しかしながら、地方分権の進展や少子高齢・人口減少社会の到来など、成長と拡大を基調とした社会構造そのものが転換期を迎えた今日、私たち市民には、恒久平和の実現と基本的人権の尊重を基に、先人が守り育てた文化や自然などの地域財産をいかながら、市政への参加と議会及び行政との協働により、市民が幸せに暮らすことのできる新たなまちづくりが求められています。

こうした認識のもと、私たち市民は、自治の基本理念とまちづくりの指針を明らかにし、市民、議会及び行政の役割など、自治の基本を定める規範として、ここに、平塚市自治基本条例を制定します。

第5章 自治の担い手

第1節 市民

(市民の権利)

第9条 市民は、人として尊重され、平和な中で自己実現を図り、幸福を追求する権利を有します。

2 市民は、議会及び市の執行機関に対して、まちづくりに関する次に掲げる権利を有します。

- (1) 情報を知る権利
- (2) 参加をする権利
- (3) 協働をする権利

3 市民は、自己の権利利益が損なわれないように、自己の個人情報について、保護される権利及び開示、誤りの訂正、削除等を求める権利を有します。

(市民の責務)

第10条 市民は、互いの自由及び人格を尊重します。

2 市民は、責任を持って参加をします。

3 市民は、市政運営に伴う負担を分担します。

(子どものまちづくりへのかかわり)

第11条 子どもは、社会の一員として尊重され、まちづくりにかかわることができます。

(事業者のまちづくりへのかかわり)

第12条 事業者は、次に掲げるところに配慮して事業活動を行い、まちづくりに寄与します。

- (1) まちづくりに関する情報の提供に努めます。
- (2) 環境の保全及び創造に努めます。
- (3) 地域の文化及び伝統を守り、社会的活動への貢献に努めます。

(コミュニティの尊重)

第13条 議会及び市の執行機関は、まちづくりの担い手として、コミュニティ(まちづくりに関する課題に取り組む自治会等の地域の自治組織、市民活動団体等)をいいます。以下同じです。)の自主性及び自立性を尊重します。

この手引きの作成にご協力してくださった皆さん

表紙・裏表紙

鈴木 美喜さん

子ども広報 なでしこ

岩出 純さん	府川 芽以さん
大山 遥生さん	福島 美友さん
岡崎 由仁さん	帆足 真鈴さん
常世麟太郎さん	牧野 里香さん
林 果奈枝さん	村上 亮さん

青少年議会

岡崎 創介さん	山田 健太さん
馬淵 茉衣さん	

公園愛護会(山下学童保育会の皆さん)

池田 篤生さん	香月 海渡さん
井上 凌人さん	澤野 英司さん
井上 祐也さん	澤野 雄司さん
内間 千聖さん	浄法寺郁也さん
岡村京太郎さん	高橋 鷹虎さん
亀田 美緒さん	藤井 一樹さん

ジュニア・リーダーズクラブ

小峰 希望さん	橋本 和さん
---------	--------

町内福祉村(港地区町内福祉村の皆さん)

今井 理佐さん	田上 華苗さん
遠藤 理花さん	田中 咲江さん
粕谷 麻衣さん	新井 彩夏さん
小池 遥さん	若林 夏輝さん

ユースボランティア

井坂 琴音さん	戸田勝太郎さん
内山 東樹さん	安友 沙織さん
上村かすみさん	

保護者のみなさまへ

この手引きは、平塚市自治基本条例の基本的な考え方である「市民、議会、行政が協力、連携してまちづくりをすすめる」ことや「子どももまちづくりにかかわることができること」などを、小学校6年生のお子さんにお伝えするために作成したものです。

ご家庭において、お子さんがどのようにまちづくりにかかわることができるか、一度お子さんと一緒にお話しをされてみてはいかがでしょうか。

また、地域で行われている様々な行事やイベント、清掃など日ごろの地域活動に、お子さんが参加できるよう、声かけをしてみてください。

その際に、この手引きが参考になることを願っております。そして、お子さんと一緒にまちづくりに参加していただければ幸いです。

なお、平塚市自治基本条例の全文や詳しい解説などは、平塚市のホームページ、<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/>に掲載されています。こちらも合わせてご覧ください。

さらに、自治基本条例について詳しいご説明が必要な場合は、グループや団体で申し込むことができる情報宅配便制度(問合せ:市民活動課 電話0463(23)1111 内線2244、2126)がありますので、ご利用ください。

ぼくも私も まちづくり

~子ども版 平塚市自治基本条例の手引き~

編集・発行 平塚市企画部まちづくり政策室  
254-8686 平塚市浅間町9-1

Eメール machi@city.hiratsuka.lg.jp

電話 0463(21)9618(直通)

ファクス 0463(23)9467



